

研究課題 (テーマ)	プロジェクションインタラクションの常設展示設備		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	情報システム工学科	准教授	中田崇行
	大学公認サークル 「イメージトレイニー」	前部長 部長 次期部長	酒井一樹 牛越一樹 廣田裕太郎
研究結果の概要			
<p>プロジェクションインタラクションとは、プロジェクタから床や机に向かって映像コンテンツを投影し、外部に取り付けられた特殊な距離センシングカメラから体験者の手や体の動き、またその他道具の存在を画像処理によって認識することで、体験者の動きによって映像コンテンツをインタラクティブに変化させる体験型コンテンツの事を指します。体験者が映像を「触る」ことが可能であるため、映像を再生するだけの一般的な映像コンテンツよりも大きな印象を体験者に与えることができます。</p> <p>研究者らは「ホタルイカインタラクション」という、富山県の名物であるホタルイカを題材としたデジタルアートを作成し、発表しました。ホタルイカは人の手や物に反応し、坂を作ればホタルイカが滑り落ち、ザルなどのお椀状のものや手でお椀を作ればそこにホタルイカがたまるなど、現実にホタルイカがいるように楽しめます。</p> <p>これらの設備は仮設の展示であったため、平成28年度中に常設展示とするため関係者と工事の調整を進めてきましたが、常設予定場所である大学本部棟玄関横のダヴィンチコーナーの大学全体の整備計画との整合を密にするため、実際の工事を平成29年度に繰り延べることとなりました。</p> <p>そのため平成28年度はまだ仮設展示でしたが、「ホタルイカインタラクション」の体験の楽しさや不思議さは仮設展示でも変わらず、地域のみならず、受験生、研究関係者、企業関係者や、内部の学生等に本大学のCOC活動や学生の技術レベルを効果的にPRしました。</p>			
今後の展開			
<p>現時点で常設の工事はまだ完了していないため、その本領を十全に発揮するには至っていませんが、現在においても仮設ながらもプロジェクションインタラクション設置されており、どなたも見学体験可能です（仮設のため、事前に連絡頂けますと幸いです）。</p> <p>常設の後には日常的に大学のイベントに組みまれ、大学案内等の魅力が増すことが期待できるため、早期の常設工事を進めたいと考えています。</p>			